

# 知的障害の教育

新潟大学教育学部

長澤正樹

# 1. 知的障害の特性

- 認知機能の遅れ
  - 学習にかかわる能力の弱さ
- 精神発達の遅れ
  - 幼稚さ、幼さ、精神発達の未熟さ
- 学習された無力感
  - 失敗経験の積み重ねから、動機付けが低下する
  - 成功への意欲が低下する

# 困難さと支援

- 困難
  - 習得した知識やスキルが偏ったり断片的
  - 実際の生活に応用されにくい
  - 具体的実用的な内容が習得されやすい
- 考えられる支援
  - 生活に基づく指導、多様な生活経験
  - 成功体験、得意とする活動・慣れている活動、興味関心
  - 視覚的の手がかり、成功して終わる

# 知的障害への対応

赤ちゃん扱いは人権侵害

- 年齢相応の扱い
- 知的能力(精神年齢)にあった教え方
- 生活に役立つスキルを教える
- できることから始め、できたときは必ずほめる
- スモールステップで教える
- 体験を通して教える

理解できる説明

成功体験が大事

一緒に遊ぶ、作るなど

# ダウン症への対応

- 学力は低いが精神年齢は遅れていないことがある
- 感受性が高い
- ほめられてのびる
- 音楽やリズム感がすぐれている
- 肥満、感染症に注意

人間味あふれる人たちです

おだてにのってくれます

心臓、体が弱い

集団の中で育てること  
役割を与え誉めること、悪いことは毅然と叱る

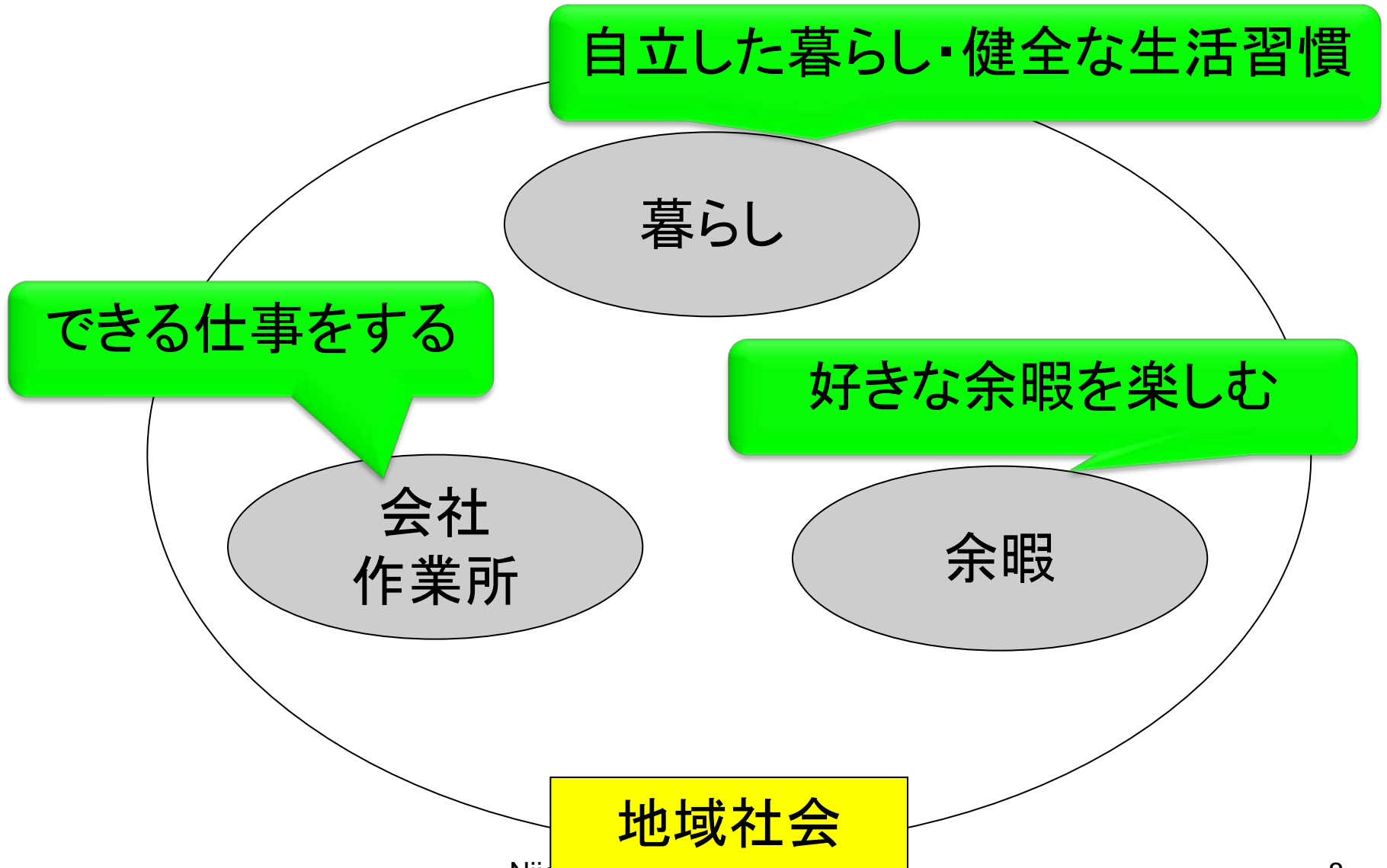
## 2. 教育方法

1. 教育目標
2. 教育内容
3. カリキュラム
4. 知的障害教育の特徴
  - 領域教科を合わせた指導
  - 個別化
  - ティームティーチング

## 2-1 教育目標

- 将来の自立した生活を重視している
  - 社会的自立、経済的自立
- 量的な充実より質的な充実
  - QOL
- 知的能力の向上より、スキル(技能)の重視
  - 生きるための具体的な力の獲得

# 充実した生活・人生のモデル





## 2-3 教育内容

コミュニケーション

身辺自立

家庭生活

社会的スキル

実用的な

就 労

読み書き計算

余 暇

地域活動

健康と安全

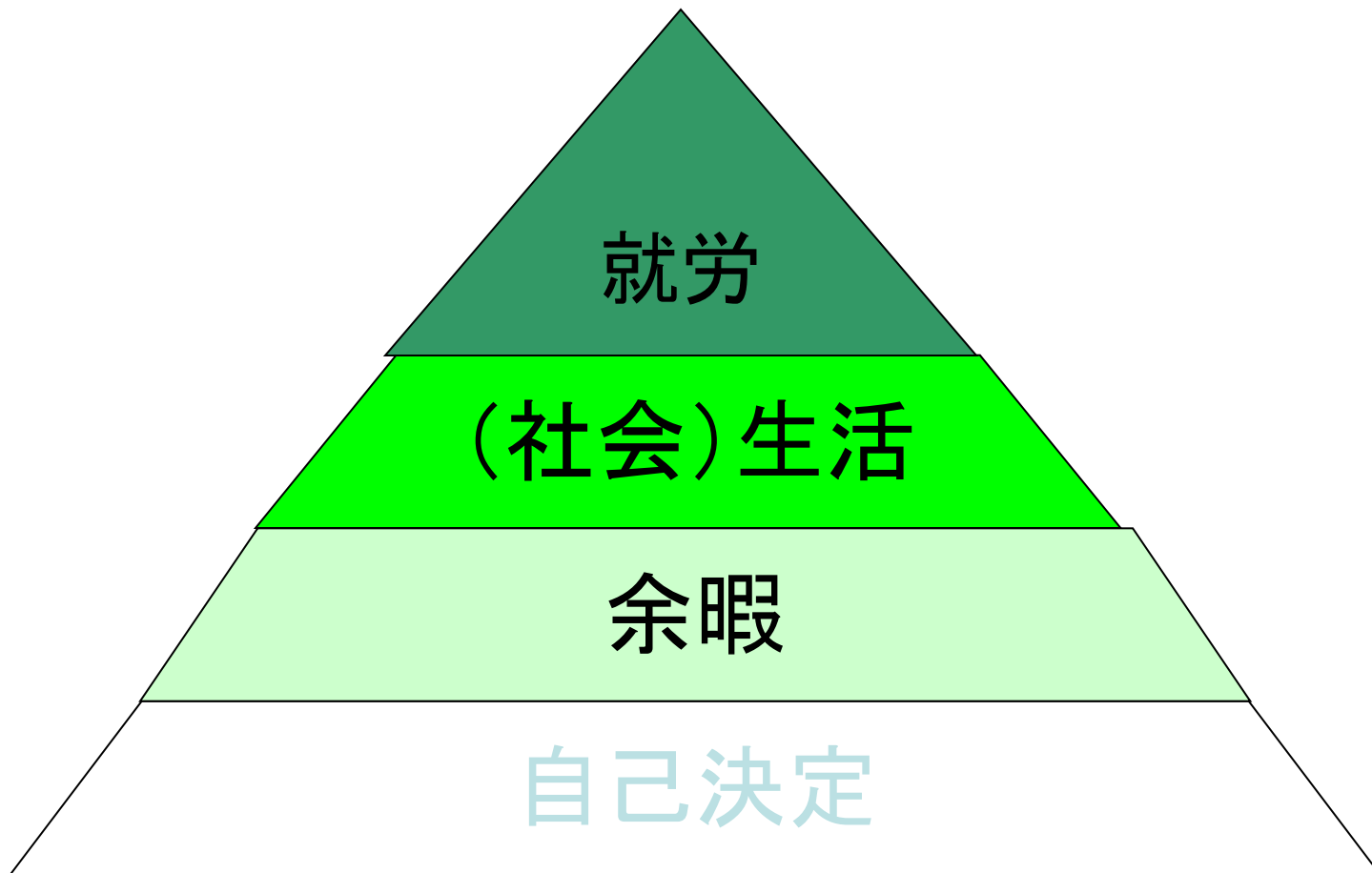
自己決定

## 2-3 カリキュラム

- 教科中心のカリキュラム(通常のカリキュラム)
- 機能的カリキュラム
  - 自立につながる10のスキルを直接教える(自立活動中心カリキュラムに近い)
- 領域教科を合わせた指導中心のカリキュラム
  - 日本独自のカリキュラム
  - 体験を通して教科やスキルを教える
  - 系統性に問題あり

# 知的障害の子どものカリキュラム

＜基本的な考え方＞



# カリキュラムの編成の手続き

児童生徒の実態  
地域の状況  
社会情勢

領域教科をあわせた指導  
教科別の指導

年間指導計画

学校教育目標

教育内容の精選  
学習指導要領

カリキュラム編成

# 知的障害特別支援学校教育の特徴

- 領域・教科をあわせた指導
  - － 体験、経験による具体化
- 個々の実態に応じた指導
  - － 個別化、一斉指導の中の個別化
- ティームティーチング（複数の教師による指導）
  - － 計画、準備、実践、評価

# (1)領域教科をあわせた指導

- 日常生活の指導
  - － 着替え、食事、排泄の指導
- 遊びの指導
  - － 遊びを通して、ことば、数、社会性などを育てる
- 生活単元学習
  - － 体験を通して、さまざまな能力を身につける
- 作業学習
  - － 生産活動を通して、さまざまな能力を身につける

# 生活単元学習年間指導計画

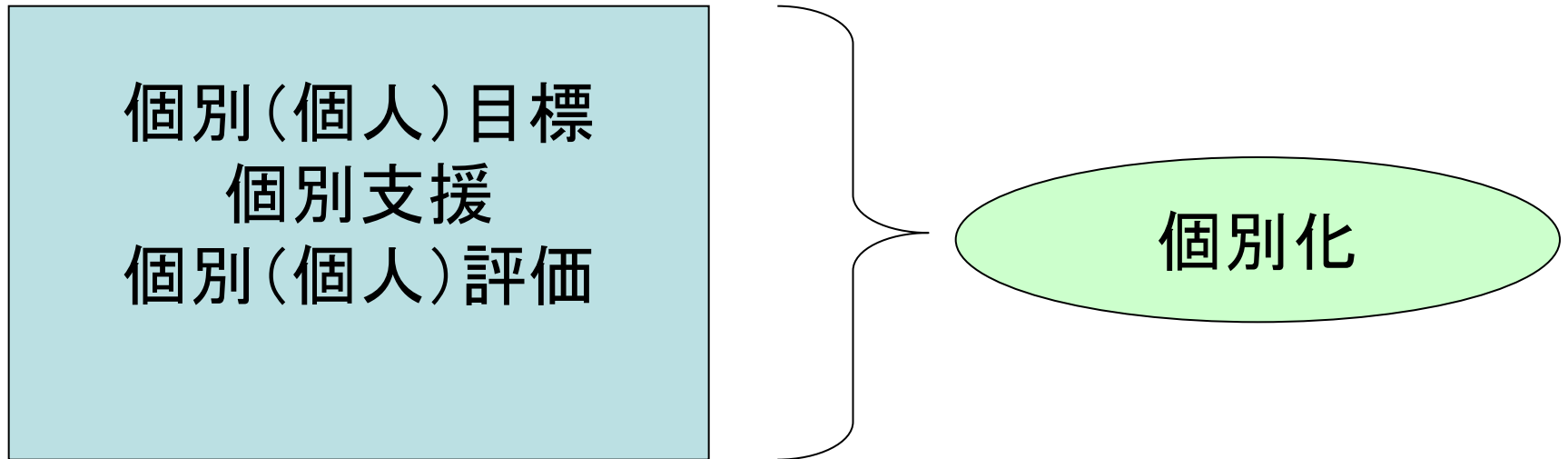
## 合わせた指導でのスキル獲得指導は？

月	単元名	
4	新しい学年	<p><b>指導案</b></p> <p>遠足の日程を知る 遠足の準備をする 自分の係りの仕事をする</p> <p>最後まで歩く レクリエーションを楽しむ</p> <p>作文を書く 発表する</p>
5	楽しい遠足	
6	運動会	
7	水遊び	

必要なスキルを教えるための生活単元学習(教育方法)

## (2)指導の個別化とは？

- 個別指導（一対一の指導）
- 一斉指導の中の個別指導
- グループ指導の中での個別指導



個別化と保障のための計画書：個別の指導計画



カリキュラム  
学習指導要領

子どもの実態  
ニーズ

年間指導計画  
学級経営案  
指導案

個別の指導計画

個人目標  
個々の支援・教材  
個人評価

# カリキュラムと個別化の関係

- 児童生徒の実態にもっとも適したカリキュラムの編成

教科中心？合わせた指導中心？自立活動中心？

- 個別化の保障

個別指導、個別の計画

- 指導の系統性の保障

発達課題、学習課題の順序性に従った指導

領域	番号	内容	達成月日
数 と 計 算	1	順序を数で表し、その意味を理解することができる。	
	2	10までの数について、表し方と意味を理解している。	
	3	10までの数の足し算ができる	
	4	0を含む足し算ができる。	
	5	10のまでの数の引き算ができる	
	6	20までの数について、表し方と意味を理解している。	
	7	20までの数の足し算ができる。	
	8	20までの数の引き算ができる	
	9	3つの数の足し算ができる。	
	10	3つの数の引き算ができる。	
	11	3つの数の足し算、引き算の混ざった計算ができる。	
	12	繰り上がりのある足し算ができる。	
	13	繰り下がりのある引き算ができる。	
	14	20より大きい数の数え方、唱え方、意味を理解している。	
	15	100まで数の系列や大小について理解している。	
量 と 測 定	1	3つ以上の具体物の長さを比べることができる。	
	2	ものの長さを〇〇のいくつ分で表すことができる。	
図 形	1	立体図形の特徴をとらえることができる (筒状、球状、箱状について)	
	2	立体図形を構成する一部分に平面図形があることが分かる。	

指導段階表。個々の実態にあった指導を

### (3)教師間の連携

- ティームティーチング(TT)の内容
  - 指導計画立案、準備、授業、評価(反省)
- 成功の秘訣
  - 通常担任と特支担任との協働作業
  - お互いの立場を尊重し、目標達成
  - お互いの得意分野を生かす
  - 役割分担を明確に

# Co-Teaching(Sileo & Garderen,2010)

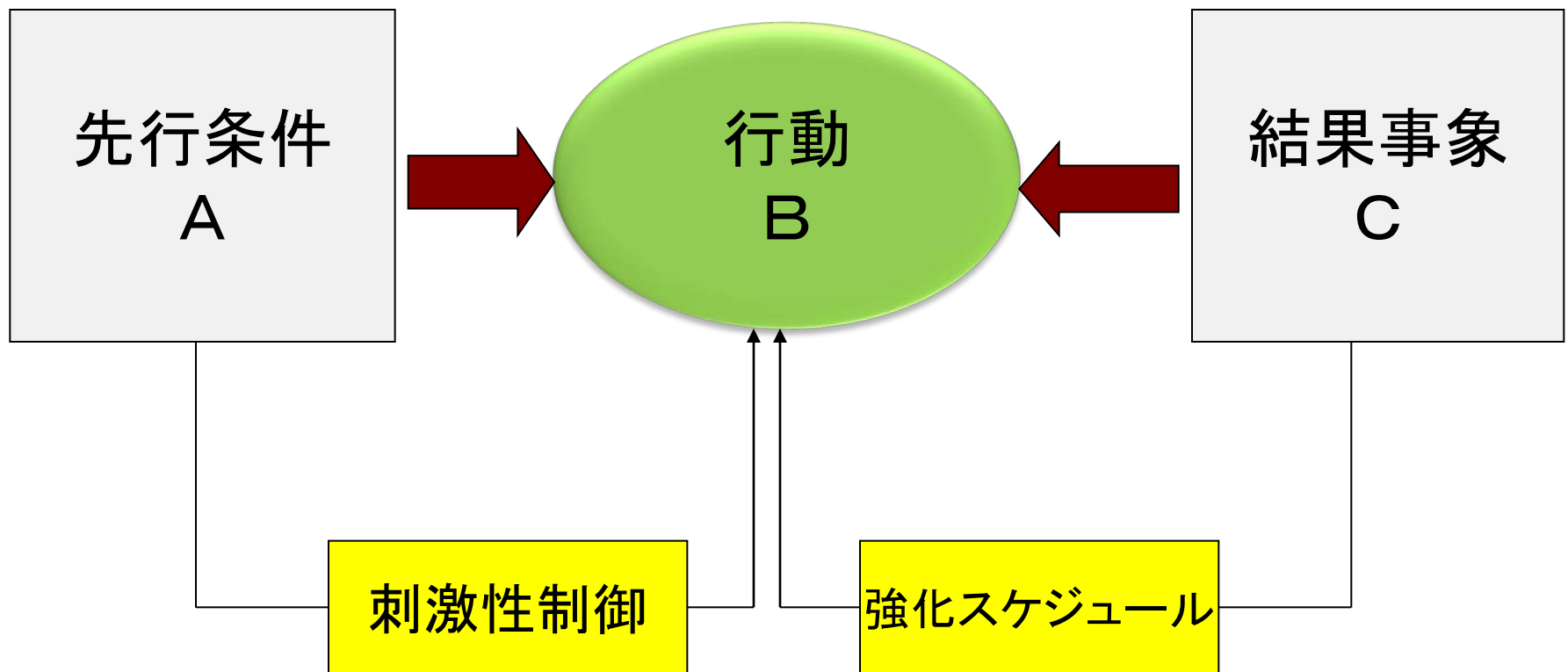
1. MT:授業者、ST:観察者
2. TT(指導の分担)
3. MT:全体指導、ST:小グループ(個別)指導
4. MTとSTが並行して指導
5. MTとSTが別の学習内容を指導
6. MT:授業者、ST:巡回指導

1から4は  
同じ学習内容

目標確認→計画(分担)→実施→評価

# 3 行動理論に基づく授業

# 応用行動分析の基本：三項随伴性



三項随伴性：先行条件・行動・結果事象（ABC分析）  
刺激性制御、強化スケジュール

# 指導の流れ

1. ニーズ、実態把握
  - 聞き取り、知能検査、観察
2. 指導計画作成
  - 目標設定、指導方法
3. 指導
4. 観察、記録、聞き取り
  - ビデオ、チェックリスト、検査、インタビュー
5. 指導の評価



# 授業設計、5つの条件

1. ニーズにあった具体目標の設定
2. うまくいくための工夫
3. できた時、できなかった時の対応
4. 指導者の役割の明確化
5. 客観的な評価

# (例) 作業学習

## 単元: 製品の梱包

事前の対応	目標(標的行動)	事後の対応
A:ストローを1本ずつのせるシート	ストローを10本ずつひと束にまとめる。10セット	・「よくできたね」と声かけをし、シールを一枚与える。 ・10本そろえられない時は、教師がやってみせる。 <担当:ST>
B:ストローを1本ずつ入れる箱	ストローを10本数える	

# 4. 指導技法

# 4-1 うまくいくためのテクニック

## 事前の対応

# (1) シンプルに

- 環境の整備、設定

活動に必要な物だけを置くこと

- 課題の始まりと終わりがわかる目標

がんばって最後まで → 「5枚貼りましょう」

- 結果に対して素早く対応

「それでいいんだよ」「違います。〇〇だよ」

- 成功には賞賛、ご褒美を

## (2)段階的な援助

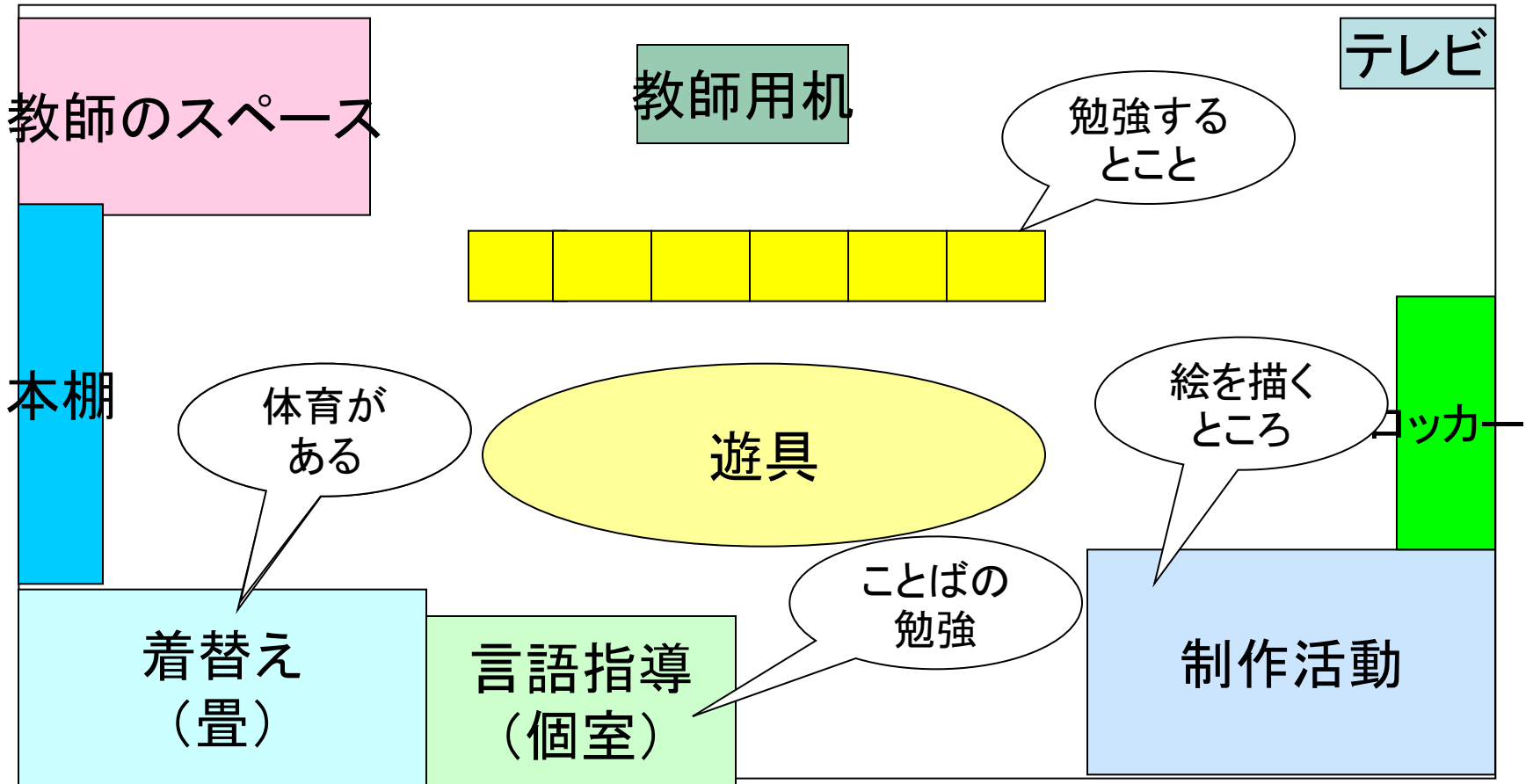
- 援助
  - ことばによる援助、モデルを示す、手を添えて援助
- 援助のきまり
  - 援助は段階的に減らす
  - 援助のタイミングを遅らせる

## (3)視覚的支援

- 約束、日課、活動が見て確認できる手がかりのこと
  - スケジュール表
  - 絵カードによるセルフマネジメント
- 環境の構造化
  - 活動と場所を固定化し、場所で活動内容がわかること

視覚的の手がかりは記憶への負荷を減らし、  
見通しを持たせることができる

# 教室の構造化



ひとつの場所でひとつの活動だけ



# (4) スモールステップ(買い物)



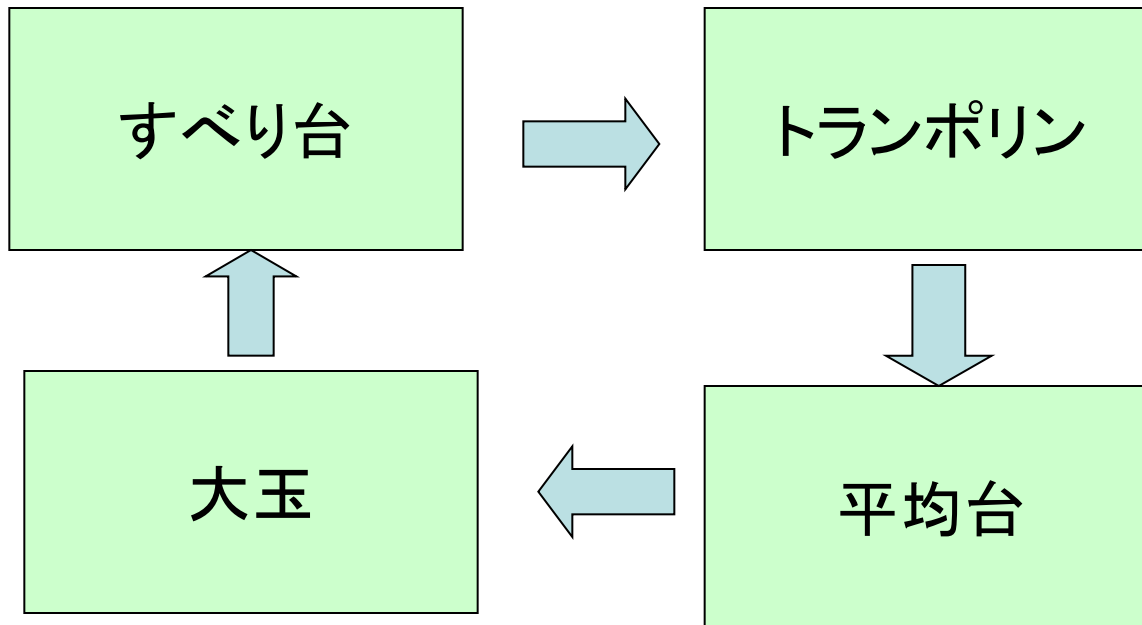
# (5)意欲を高める

- 意欲を高める環境設定、文脈の工夫
  - 高いところに欲しい物を置く
  - 絵かき用の紙だけを渡す
  - 複数の欲しいもののひとつは自由にとれるが、あとは自由に取れない
  - 遊びを途中でやめる

当事者がしたくなるように  
小さな意地悪(工夫)をすること

# (6) 繰り返しの原則

場所と活動の特定化、繰り返し



# 4-2 うまくやり続けるための テクニック

事後の対応

# (1)教育的なごほうび

- 教育的なごほうびとは、与えることで何度も実行できるようにすること
- 生きていく上で必要不可欠なもの
  - 食べ物、飲み物、睡眠、性、安心感など
  - 制限することで効果が増す(ただし危険も)
  - 飽きることもある
- 社会的なもの:「もの」ではなく「かかわり」
  - 表情、接触、名誉、ことば(ほめことば)

教育的なごほうびとは  
やる気を育てるかかわり、もの

# 効果的なごほうびの選択

- 好み、好きなこと、ものを調べる
  - リストを作ること
- 課している課題に見合うだけの強化子を選択
- 生活の中に含まれている強化子の使用
  - おやつを増やす、ゲームの時間を長くするなど
- 必ず記録を取ること

当事者の好みのリスト

効果があるかどうかは与えてみないとわからない

当事者にあったごほうびをきめ、  
与えたあとの様子を観察すること

ごほうび

100ポイント: クラスでパーティ

50ポイント: お茶会

10ポイント: おやつ

## 標的行動

ストローを10本数える  
ストローを10本一束にする

ポイントを集めてものと交換  
ごほうびに差をつけること  
今の楽しみを我慢する練習

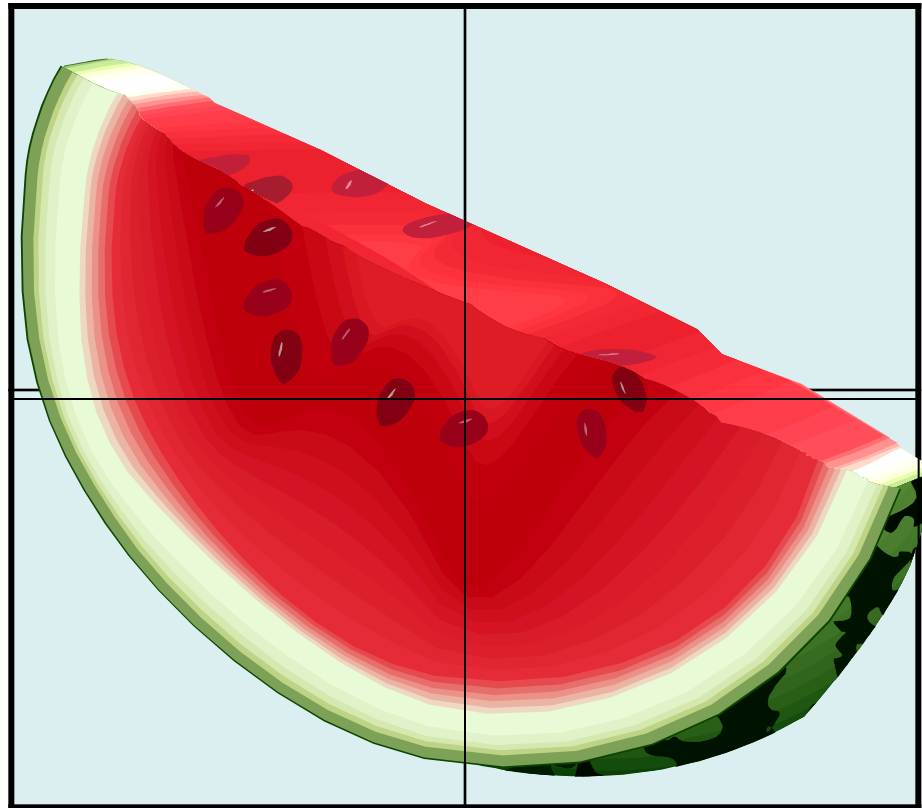
約束を具体的に

## (2) トークンエコノミー

トークンを集めるとごほうびがもらえる

# こういう方法も、

うまくできたときに、4分の1を与える  
4枚そろったら、西瓜がもらえる



トークンが使えない場合  
もらえるものがわかりやすい。動機が高まる



### (3)段階的に認める

- 不完全でもまずは認めよう
- できるに従って基準をあげる

○:「ちっ」

○:「ちょう」、×:「ちっ」

○:「ちょうだい」、×:「ちょう」

「ちょうだい」と  
いえるように  
なった!

## (4)教育的な罰

- 教育的な無視
  - 問題行動に対してルールを繰り返す
- 過剰修正
  - 失敗を自分で回復させる(+誉める)
- 活動の制限
  - タイムアウト: 教室から一度外に出す
  - ゲームの時間、自由時間を減らす

このほめることも大事だが、  
約束を破ったら結果責任を負うこと(罰)も重要！  
事前に説明しておくこと

## 6. 記録と評価

# 記録と評価

指導したら必ず記録をとりましょう

- 何を記録するのか

子どもの行動、教師のかかわり

- どうやって記録するのか

– 主観的記録、チェックリスト、検査、ビデオ

- 何がわかるのか

子どもの成長、指導の効果

記録で成長と指導の有効性がわかる

# 指導前と指導後を比較する

指導前	指導中	指導後
<ul style="list-style-type: none"><li>・声かけをすると服に手をのばして着ようとする。</li><li>・Tシャツに頭を入れることはできる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○月○日</li><li>○月○日</li><li>○月○日</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・時間になると更衣スペースに移動する。</li><li>・袖を通すときに手を添えると、Tシャツを一人で着る。</li></ul>

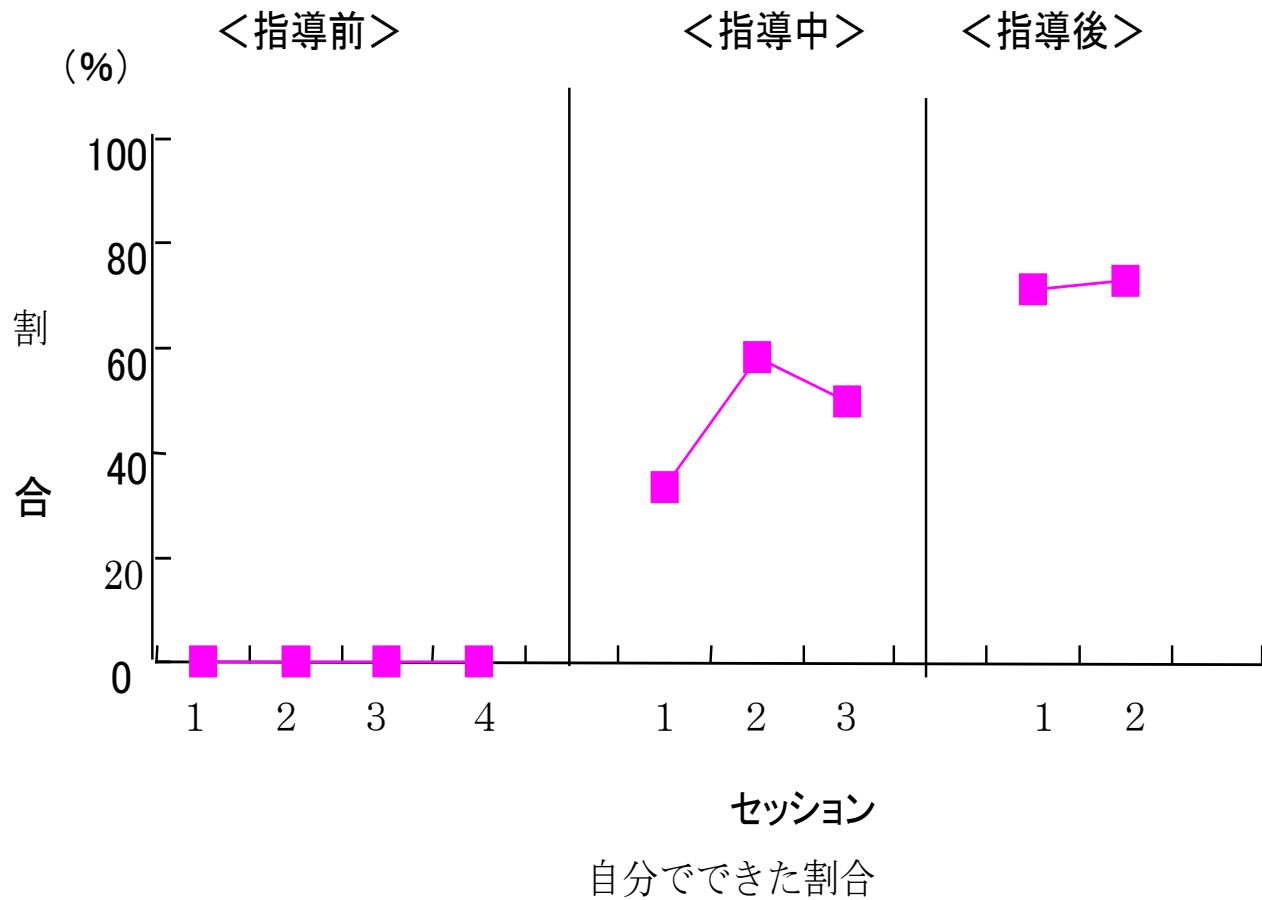
# 5-1 主観的記録の例

問題が起きた 場面・状況	問題行動	対応	結果
・朝のあいさつ 〇〇くんの手 が顔にぶつか る	・〇〇くんのお なかを叩く	・「いけません。 あやまりなさい」と叱る	・「僕は何もして いない」と言う

時系列的に分け、事実に基づき記述する  
記録から、次の指導が見えてくる

## 5-2 チェックリスト

	月 日	月 日	月 日	月 日
服を着る				
着られた 服				
時間				



5-3 結果を図に表すと変化が一目でわかる  
表計算ソフトの有効活用



# 5-4 カリキュラムに基づく記録と 評価

- 学習内容から、学ぶべき目標を具体化する
- 課題分析の手法で、スモールステップ化
  - 下位目標を選択し、系列化を図る
- 項目の設定は自由
  - 子どもの実態に応じて弾力的に
- できるだけ数値で評価を

カリキュラムに基づく記録と評価とは、  
目標(スキル)をチェックリスト化すること

# カリキュラムに基づく記録と評価

目標：一人で買い物をする

	11月21日	11月28日	12月5日	12月12日
店に行く				
物を選ぶ				
レジに並ぶ				
お金を支払う				
おつり・物を受け取る				
家に戻る				

## 5-5 検査による評価

- 発達検査
  - 継続的に実施→子どもの成長を評価
- 知能検査
  - 知的能力や能力の偏りを調べる
  - 指導の評価には向かない
- 適応行動尺度(社会生活能力検査など)
  - 適応行動の獲得が評価できる
- 学力検査
  - 読み書き計算能力(参考、K-ABCⅡ)

# 5-6 系統表→チェックリスト

一人で服を着る					
たたんだ衣類をタンスに収納する					
衣類をたたむ					
洗濯機で衣服を洗濯する					
洗濯物を干す					
衣類を管理する					

定期的に評価する  
できたときに記録する

長期的な子どもの成長を  
確認できる

## 5-7 個別の指導計画の評価

- 短期目標を定期的に評価
  - － 達成できた→次の目標へステップアップ
  - － 達成できない→指導方法、目標の再検討
- 長期目標・短期目標の評価
  - － 達成できたこと、できないことを整理する
  - － 標準化された検査で評価

時期をきめて必ず評価→記述  
次の学年(担任)、学校へ必ず引き継ぐこと

# 6. まとめ

- 知的障害の特性の理解
  - 経験を通して教える
- 人権の尊重
  - ニーズにあった目標、自己選択、インフォームドコンセント
- 特性にあった対応
  - 個にあった説明、課題
  - さまざまなテクニック
  - 授業：PDSサイクル

# 長澤研究室



<http://www.ed.niigata-u.ac.jp/~nagasawa/>

メールマガジン、特別支援教育・発達障害の情報、資料

Niigata Univ.-Nagasawa Labo.